道筋つけ豊口会長が退任
新会長に町田睿氏内定

豊口祐一同窓会長（昭和34卒）が今期限りで退任することが決まった。後任には町田睿氏（昭和31卒）が内定した。これは4月28日に秋田市の協働大町ビルで開かれた平成26年度同窓会理事会に会長交代人事が提案され了承されたもの。会則第6条の定めに従い、正式に役員人事が決まるのは6月15日開催の総会となる。

豊口会長は昨年9月の運営委員会で今期限りの退任を表明し、これを受けて次期会長候補を選ぶ選考委員会が設置された。同委員会で人選を進めた結果、町田氏を第10代会長に推薦することで一致し、同氏からも前向きな回答を得ていた。4月の理事会の席上、豊口会長は任期満了を迎える今期限りで退任する意向をあらためて表明し、2期6年にわたる在任期間を振り返って次のように述べた。「長年手つかずの状態にあった会則や諸規程を時代に即したものに見直し大幅に改定したほか、同窓会組織の活性化と財政基盤の強化に努めた。会員の協力で一定の成果を上げることができ感謝している。次につなげる道筋が見えたのを機に新たな人材にバトンを渡したいと思う」

豊口会長はこのように述べ、選考委員会の推薦と運営委員会の審議を経て次期会長候補に名前が挙がった町田睿氏の推薦に同意を求めた。その結果、出席者から異議はなく、満場の拍手で町田氏を新会長候補として6月の通常総会に提案することを了承した。このほか任期満了に伴う役員改選では、藤盛節子副会長と高橋正毅監事の退任を了承、このうち高橋監事の後任には、運営委員会の推薦どおり佐藤隆夫氏（昭和50卒）を推すことが満場の拍手で決まった。高橋貢前校長は参与に就任した。

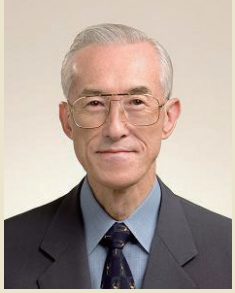
また、理事会には平成25年度決算と平成26年度予算案が提案され、理事会はいずれも原案どおりこれを承認した。

このうち予算案は名簿会計を廃止して一般会計に組み入れた結果、総額で2千440万円と過去最大の規模になった。このほか今回の理事会には、学校創立140周年記念募金を原資とする秋田高校教育振興基金を設置するための「教育振興基金管理規程」の新設が提案され承認された。同基金は母校生徒の教育振興のために活用される。

さらに会則・規程の一部改定も議題にのぼった。このうち3年前に広報委員会の付属機関的な組織として発足したホームページ委員会を常置委員会に昇格させる提案があり了承された。

また、各常置委員に任期を設け3年とするほか、特別委員会の委員選出方法を常置委員会の委員選出方法に合わせる改定案が了承された。出張旅費を実費支給とする財務規程改定案も承認された。

新会長に内定した町田睿（まちだ・さとる）氏は秋田市出身で昭和37年、東京大学法学部を卒業後富士銀行に入行。昭和63年同行市場開発部長、64年取締役総合企画部長、平成3年常務取締役を経て平成6年に荘内銀行代表取締役副頭取に転出した。同行代表取締役頭取には翌平成7年に就任している。平成21年には荘内銀行と北都銀行との資本提携に踏み切り、北都銀行取締役会長に就任するとともに、金融持ち株会社フィデアホールディングス取締役兼取締役会議長としてグループ全体のかじ取りをリードしている。



次期会長に内定した
町田 睿氏

事務局長に佐藤英明氏就任

空席となっていた同窓会事務局長には、昨年4月から事務局長補佐として140周年記念事業を中心に実務にあたってきた佐藤英明氏（昭和46卒）が4月1日付けで昇格、堅実な事務処理で手腕を発揮していることが報告され、了承された。佐藤氏は平成24年度末まで教職にあり、秋田市立桜小学校教頭を最後に退職した。

天上天下 TENJO TENGE

昨年、約50年ぶりに開腹手術を受けたが、術後の痛み緩和ケアの充実ぶりには、大いに驚くとともに、大変感謝もした。昔は、術後3日間は激痛に襲われたが、今回は痛みをほとんど感じなかったのである。どんな疾患でも、病気の症状で一番つらいのは痛みだから、無痛化の長足の進歩は患者としては大歓迎である▼50年前の上京には、最速の特急でも8時間を要し、最後は尻が痛くなってきたものだが、現在は新幹線で4時間を切る。冷暖房の完備で、アセモ、アカギレ等は死語になりつつある。科学技術の進歩はわれわれに快適さをもたらし、社会全体を急速に無痛化したのである▼一方で、それに伴う弊害も顕在化してきた。地球温暖化など目に見える現象のほか、快適、安楽などがもたらす精神的な側面も看過できない。困難を克服していくことで得られる「生きる喜び」が失われつつあるように見え、それは、ひいては人間の生命力全体の減衰につながりかねないからである。無痛化社会のあり方に、哲学的な考察を加えるべき時期に来ているのではなかろうか。